

科目名	授業形態	単位数	授業区分	履修時期		基礎・応用	教育概要	学位授与方針(OP)との関連																			
				学年	学期			身につける能力要素																			
								知識・理解	思考力	課題発見力	発想・構想力	表現力	倫理性	実行力	基礎学力	自己管理能力	人間関係形成力										
								1535	200	720	965	615	150	510	135	60	110										
								34	9	26	31	16	6	19	4	3	5										
建築・環境概論	講義	2	必修	1	前期	●	本学科で学ぶ建築・環境デザインの分野で学ぶ事柄を、系統別に細分化して一コマごとの講義で総論的・建築・環境学を幅広く総合的に理解することを目的とする。	①〈想像力〉建築・環境デザインの分野構成と広がり理解し、課題を認識できる。(70%) ②〈社会性〉自分の考えをまとめた的確に伝えることができる。(30%)	各回レポート																		
西洋建築史	講義	2	必修	1	前期	●	「古きを訪ねて新しきを知る」として、歴史学の真髄である。歴史を学ぶことは昔を知ることでなく、同時に未来を見据えることにもなる。本授業では、古代から近代までの西洋の建築の歴史の概観を理解し、同時に歴史に触れ、歴史から学び読み解くことを体得し、将来自然に歴史に親しみながら、これを大きなヒントとして自らの建築空間や芸術作品づくりの場で新しい発想や斬新な視点を引き出すことが目的である。	①西洋建築の歴史に関する基礎的な知識を身につけ、その概要や特徴を理解し、説明することができる。(40%) ②西洋建築の歴史から学んだ歴史観を、実際の自身の芸術作品、デザインに活かすことができる。(10%) ③西洋建築の歴史から学んだ事柄から、自身の歴史的視座、歴史観を研ぎ澄まし、歴史を武器にして未来へ向けた新しい発想ができる。(40%) ④西洋建築の歴史から学んだ事象を、自身の周辺の社会課題解決のためのヒントとして活かすことができる。(70%)	レポート、出席カード型振り返り感想シート																		
風土形成論	講義	2	必修	1	前期	●	私たちが暮らす「地域」は、自然の山やそこへ木材や薪を得るため植林した斜面、自然の川やそこから水を引いてつくる水路や田、道、村や町、雨や雪、季節の花、虫や鳥などの全体とてある。私たちがそれを「風土」ともとらえてはいないだろうか。だから、地域の歴史の継承や未来への創造のためにはまず「地域そのもの」を知らなければならない。地域の何と何がどう関係し風土が形成されてきたか知るといふ目標を持つことは具体的かつ総合的で役立つ。この授業では、風土のなりたちを理解する意義と方法を知るとを目的とする。	①〈想像力〉風土のなりたちを理解したうえで観察に基づく記述ができる。課題を指摘できる。(70%) ②〈意志〉諸学術的知見や人々の生活知に注意を向けレポート作成できる。(30%)	各回ミニレポート、最終レポート																		
都市計画	講義	2	必修	2	前期	●	これからの日本の社会に相応しい都市や地域のあり方、まちづくりのビジョンを理解する。わが国における都市計画の仕組みとして現行都市計画法で定める主要な都市計画の内容、都市計画の目標である良好な市街地形成実現の主要手法である土地利用規制、市街地整備事業の基本的内容を理解する。	①〈想像力〉現在の日本の都市が直面している問題・課題について説明することができる。合わせて都市計画やまちづくりに関する主な専門用語を説明することができる。(75%) ②〈創造力〉将来の都市のあり方とビジョンについて論じることができる。(25%)	授業内課題、取り組み度																		
建築構法	講義	2	必修	1	後期	●	様々な地域と歴史・文化に支えられた建築物の概要を、その背景を含めて理解する。また、「木造」「鉄筋コンクリート」「鉄骨造」などの基本的な構造に対しては、基礎・床・壁・天井・屋根などの基本となる各部位の必要な基礎知識を含めて修得することを目的とする。	①〈想像力〉木造、RC造、S造の建築に対して基礎、床、壁、天井、屋根などの各部位の構成・名称を理解し、図示することができる。(70%) ②〈創造力〉開口部、寸法体系、積雪への対応など、生活との関係性を理解し、説明することができる。(30%)	各回提出物、中間テスト、期末テスト																		
エコロジカル地域論	講義	2	必修	2	前期	●	東北とはどんな地域なのか、周りに広がる森や田畑にどんな可能性があるのか。そして、我々は何を食べ、どんなエネルギーを使うのか。この講義は東北を中心に、暮らしと地域のエコロジカルな結びつきを発見できる目を養い、人間と自然との新たな関係を創造する力をつけることが目標である。	①〈想像力〉食やエネルギーといったものが抱える環境的な問題を認識できる。食やエネルギーといった日常の生活の中で消費しているものと、地域がどのようなつながりを持っているのかを見いだせる。(75%) ②〈意志〉東北や自分が住む地域が持つエコロジカルな可能性と環境問題解決の糸口を発見できる。	各回レポート、提出課題																		
エコロジカル建築論	講義	2	必修	2	後期	●	本授業では、住まいや建築がどのようなエコシステムから成り立っているかを学び、建築設計における環境的な視点を持つようになる。そのために、エコシステムを食、空、光、エネルギーなど基本的な要素にわけ、それらが人間空間とどのようなつながりを持つのか基本的な原理建築の設計を行う以上、近現代の建築の歴史、現状、デザインの潮流を、理解し、その手法、考え方を学ぶ。また、エコハウスの最低限の知識を身につける。	①〈想像力〉住宅の環境性能を論理的に理解している。(75%) ②〈社会性〉住宅の環境性能に関する要素技術を理解している。(25%)	各回レポート、提出課題																		
建築設計論	講義	2	必修	2	後期	●	この科目は、「建築・環境デザイン」を学ぶ最初の演習として、人間の生活と建築のあり方や、建築を取り巻く周辺環境を、様々な視点・スケールから体感・分析し、建築および環境デザインの基礎的な技術と知識を体得することを目的とする。	①〈想像力〉建築家とその作品の意味、時代背景を理解する。(75%) ②〈創造力〉現代の建築史を理解するとともに、お互いの影響関係性を学ぶ。(25%)	各回レポート、期末レポート、テスト																		
建築・環境基礎演習	演習	2	必修	1	前期	●	この科目は、「建築・環境デザイン」を学ぶ最初の演習として、人間の生活と建築のあり方や、建築を取り巻く周辺環境を、様々な視点・スケールから体感・分析し、建築および環境デザインの基礎的な技術と知識を体得することを目的とする。	①〈想像力〉人、物、建築および周辺空間(環境)の形、大きさ、質を観察して把握し、説明できる。(30%) ②〈創造力〉観察で得た情報を基に表現を発想し、描写や立体造形を行うことができる。(70%)	参加姿勢、提出物、ミニレポート																		
インテリア基礎演習	演習	2	必修	1	前期	●	1年生で最初に空間デザインを実践する演習である。自由な発想で空間を創造しつつ、建築に求められるスケール感と、その表現力を養う事を目的とする。	①〈想像力〉縮尺及びスケール感について理解した上で、インテリア空間を発想することができる(30%) ②〈創造力〉発想した空間を図面や模型、スケッチにて表現することができる(40%)	受講態度・成果物																		
図学製図演習	演習	2	必修	1	後期	●	製図では、与えられた図面の内容を理解し、正確にきれいに描くことができるようになる。また図学では、2次元への投影図から3次元の空間図形をイメージできるようにすることが要求される。さらに、3次元の空間を、2次元である平面上に表現することができるようになることも求められる。製図道具にふれ、様々な技法によって正確に・早く・美しく線を引く、パランスの取れた図面を作成できるようになることを目的とする。	①〈想像力〉建築設計製図の図面の意味を理解し、その描き方の基本を身に付け、正しく描くことができる。(50%) ②〈創造力〉各種図法を理解して課題を解き、正確に美しく描くことができる。(40%) ③〈社会性〉与えられた時間内に作業を終えて、課題を提出することができる。(10%)	提出図面、提出課題、確認テスト																		
CAD演習	演習	2	必修	1	後期	●	コンピュータの発達と普及は設計におけるコンピュータの使用は不可欠なものとなり、本演習では設計ツールとしてのCADの利用を習得することは必須条件と言えます。設計図面作成からプレゼンテーションツールとして使用する技術を修得することを目的とする。	①〈想像力〉JW CADの基本操作を身につけ、2Dの図面を正確に作成できるようになる。(75%) ②〈創造力〉Sketchupで2D図面を3Dに変換し、プレゼンテーションすることができるようになる。(10%) ③〈意志〉アーキキヤドを使ってBIMを体験し操作ができるようになる。課題締め切りまでに提出することができる。(15%)	提出課題																		
建築・環境施工演習	演習	2	必修	1	後期	●	建築や土木構造物の設計には、素材の特性やその使い方の特性を理解することが必要である。この演習では、建築やその他構造物を作る本格的な施工技術について説明することにより、素材を理解し、素材の特性から施工方法を考案することや、目的の構造物に見合った材料を見出すことを体感的に学ぶことに重きを置く。したがって環境や素材に触れ、資源の存在に気がつくこと、それを材料として用いながら構造物の施工を実際に行うことで、素材の特性や材料の施工性を知り、引いては既在の建築や構造物の材料や施工について想像を巡らすことを目的とする。	①〈想像力〉屋外での構造物の計画、設計・施工を体系的に理解し、それをノートにまとめることができる。(40%) ②〈意志〉現場で得られる新しい知見を野帳に記録し、情報の収集を行うことができる。(30%) ③〈社会性〉グループで協力しながら構造物の施工を完了できる。(30%)	作業記録ノート(野帳)、記録ノート(まとめ)、作業実績																		
デジタル表現演習	演習	2	必修	1	後期	●	デジタル表現の基礎(レイアウトデザイン、色彩、タイポグラフィ)を身につける。具体的には、ポートフォリオに必要な要件の理解とともに、グラフィックデータ特性や下記ソフトウェアの操作演習を実施する。 ●Adobe Illustrator ●Adobe Photoshop 初級という位置付けであることから、基本的な操作を身につけ、自身が表現したいレイアウトデータをソフトウェアを使用して制作できるようになることを目的とする。	①〈想像力〉ソフトウェアの特性や基本操作を理解して、デジタル表現ができる。(40%) ②〈創造力〉独自性や工夫(配色・フォント使い・可読性・可視性)を加えたデータ制作ができる。(50%) ③〈社会性〉制作物の役割を理解し、コミュニケーションツールとして活用可能なデータ制作ができる。(10%)	提出データ																		
建築設計演習1	演習	3	必修	2	前期	●	1)定規あるいは平行定規など、実際の製図で使用する道具を使いこなす。スケッチアップなどをCADツールを用いて、レンダリングを行うことができる。(20%) ②〈創造力〉建築の架構の構造的理解を通じて設計・模型制作を行うことができ、適切な設計図と表現によるプレゼンテーションレポートを作成することができる。(70%) ③〈社会性〉エスキスを通じて作業を継続して進め、各課題の締め切りまでに提出することができる。(10%)	①〈想像力〉平行定規等、実際の製図で使用する道具を使いこなし、スケッチアップなどをCADツールを用いて、レンダリングを行うことができる。(20%) ②〈創造力〉建築の架構の構造的理解を通じて設計・模型制作を行うことができ、適切な設計図と表現によるプレゼンテーションレポートを作成することができる。(70%) ③〈社会性〉エスキスを通じて作業を継続して進め、各課題の締め切りまでに提出することができる。(10%)	取組姿勢、提出課題																		
建築設計演習2	演習	3	必修	2	後期	●	もっとも身近な空間である住宅を設計する。クライアントである家族が、どのような家族なのか、ライフスタイルを設定し、その家族が住む住宅を各自割り当てられた敷地に検討する。敷地周囲の環境を読み、隣地との関係性を考え、家族のライフスタイルからコンセプトを設定する。それに従い、1つの住宅を組み立てる。ゾーニング、プランニング、断面・立面の検討、パースや模型制作によるプレゼンテーションといった一連の設計作業を習得する。建築の単位空間の理解、また建築の構造と構法を学習した上で、空間の構造、敷地や周辺環境との関係を考慮しながら、設計の難しさと愉しさを体得すると同時に、自己の作品としてまとめ上げること目標とする。	①〈想像力〉家族構成、周囲の環境に合わせた配置計画、構造的、計画上機能的な平面計画ができる。(25%) ②〈創造力〉意図した空間を図面、パース、模型にて表現できる。(50%) ③〈意志〉粘り強く検討を重ね、総合的に空間を構築することができる。(25%)	コンセプト、平面、立面、断面の適切性、パース、模型等によるプレゼンテーション																		
環境計画演習1	演習	3	必修	2	前期	●	フィールドワークとは、設計や研究に取り組む上で、対象となる地域を実際に訪れ、空間の観察や記録、関係者への聞き取りなどを行う調査技法だ。本演習では、基礎的な知識を身につけた上で、実際にフィールドワークを行い、地域の課題と可能性を見出す。その上で、課題の解決策を考案することで、調査から提案に至る一連のプロセスを学ぶ。提案については、できる限り自分で案出できそうな内容にする。ここでは、自分ごとで建築・都市を捉える視点を養う。	①〈想像力〉対象となる地域の情報を収集・整理し、課題と可能性を見つけていること。(25%) ②〈創造力〉調査を踏まえた企画・計画・設計を行い、分かりやすくプレゼンテーションできる。(50%) ③〈社会性〉受講生と協力し合いながら演習を進めることができる。(25%)	毎週の取り組み姿勢、前半に提出する報告書の完成度、後半のプレゼンテーションの完成度																		
環境計画演習2	演習	3	必修	2	後期	●	建築デザイン上のデザインに対しては、対象となる敷地に加え、その周辺の環境の理解が不可欠である。敷地(部分)一周環境(全体)の関係性を読み込んだ上で総合化し、空間をデザインすることの理解に取り組む。この科目は、建築設計演習2「住宅の設計」と連動し、屋外空間デザインの素養を身につけながら、住宅/敷地/街区/地域を一体的な環境として理解し、空間デザインとして統合させることを目的とする。	①〈想像力〉調査に基づきデザイン上の課題を整理し、それを解決する設計理念(コンセプト)を提示できる(30%) ②〈創造力〉設計理念(コンセプト)に基づき敷地空間のデザインを行い、それを図面や模型としてプレゼンテーションできる(50%) ③〈意志〉土地の性質、周辺環境、風景、想定する住民に配慮した調査・計画・設計を行うことができる(20%)	成果品(設計図面、イメージ図、模型) 課題への取組姿勢(エスキスの量と内容)																		
建築設計演習3	演習	3	選必	3	前期	●	3年生最初の設計演習であり、与えられた課題の機能を事例調査を通して理解し、さらに対象敷地周辺の状況を調査し、その上で必要な付加機能等を設定し、アイデアやコンセプトを明確にして、建築設計手法、図面・模型作成に必要な技術を修得することを目的とする。	①〈想像力〉課題意図に対して、各自の理解を深め、それぞれ提案に応じて、合理的な対応方法を提案できる。(25%) ②〈創造力〉提案に対して合理的な図面を作成することができる。(50%) ③〈意志〉製図に対して、わかりやすく魅力的に説明できる。(25%)	エスキス、図面、パース、模型																		
建築設計演習4	演習	3	選必	3	前期	●	建築設計演習3、あるいは環境設計演習3で修得した建築の設計に対する能力を高めるための、実践的に設定された課題に対して、それにそれぞれの考えをもって、オリジナル性を確保しつつも、様々な条件にある建築を構想し、案を展開させ、その結果を表現する。	①〈想像力〉調査・フィールドワーク等から、エリアの特徴を発見し、課題・コンセプトを立案することができ。(25%) ②〈創造力〉プレゼンテーションが適切である。(75%)	設計・提案内容、図面・模型の適切性、プレゼンテーション																		
建築設計演習5	演習	3	選必	3	後期	●	3年後期前半の課題は、卒業制作、研究に入る前哨戦として、設計、計画の演習を行う。段階的には、基礎的な造形、デザインの体感的な演習を学ぶ1年次、フィールドや実際の具体的な建築、空間デザインの基礎的体験を通して建築デザインを学ぶ2年次に次いで、さらに敷地環境・風土・コミュニティの的確な把握や解決を行い、詳細図(矩計図、ディテール)を含めた建築設計を行うことにより、より実践的な表現に挑戦。各自の興味と関心、デザインに対する態度、また自身の4年間の学習、研究計画構想の中で段階的な成長と目標達成を目指した建築設計手法を修得する。	①〈創造力〉立案したコンセプトの内容を、建築として適切に構築することができる。(50%) ②〈意志〉図面や模型、パースなどによって、設計内容を適切に可視化することができる。(50%)	受講態度、課題提出物																		
建築設計演習6	演習	3	選必	3	後期	●	複合的な機能、用途、様々な社会的な課題を有する建築物を対象に、調査・分析を経て設計することを目的とする。この課題では、人口減少時代の日本の建築のあり方を問い、誰もが集い、集まれるような魅力あふれる複合施設のあり方を考え、設計していく。	①〈想像力〉社会調査や敷地周囲などの調査から適切なコンセプトを持っていること(75%) ②〈創造力〉複合施設として、その意味が考えられ、適切に表現することができる(25%)	コンセプト、中間・最終発表プレゼンテーション、図面・模型表現																		
環境計画演習3	演習	3	選必	3	前期	●	海外の先進的な都市計画と分析手法を学びながら、東北地方における持続可能な都市計画のための調査を行い、計画づくりができるようになる。	①〈想像力〉地図や各種資料から情報を読み取り、都市の現状を客観的に分析し、課題や特徴を把握し、分かりやすく伝えること。都市スケールで地域社会の変革を構想すること。(75%) ②〈創造力〉都市を現時点だけで見るのではなく、長期的な視点で構想でき、将来シナリオを分かりやすく伝えること。(25%)	毎週の取り組み姿勢、プレゼンテーションの完成度																		
環境計画演習4	演習	3	選必	3	前期	●	農村地域の現状と課題を分析し、環境資源を評価しながら、現代的な価値と活用を提案していくことが目標である。また、地図情報化を駆使し、地域を客観的、構造的に把握、評価できるようにする。	①〈想像力〉農山村地域の新しい暮らしや都市と農村の交流を構想でき、具体的な場や事業の提案を行うこと。(25%) ②〈創造力〉農山村地域の新しい暮らしや都市と農村の交流を構想でき、具体的な場や事業の提案を行うこと。(25%) ③〈意志〉現地調査やヒアリングを通して住民の暮らしや地域社会を理解でき、伝えること。(25%)	毎週の取り組み姿勢、プレゼンテーションの完成度																		
環境計画演習5	演習	3	選必	3	後期	●	実際の空き物件を対象に、調査・企画・設計・事業計画を一体的に経験することで、総合力、実践力を養う。本演習は、環境計画演習1「フィールドワーク入門」の応用編として、より具体的な調査・計画を行った上で、空き物件のオーナーとプレゼンテーションを行う。山形市より人口が少ない地方都市を対象にすることで、様々な地域で課題を解決するスキルを鍛えるとともに、卒業をうけ小規模なまちづくりの連続がまちづくりにつながっていることを体感してもらい、	①〈想像力〉地域・物件の課題・可能性を把握するとともに、地域固有の資源を見出すことができる。(25%) ②〈創造力〉地域課題を解決するための企画・計画・設計案を見出し、分かりやすくプレゼンテーションできる(50%) ③〈社会性〉受講生との協働・関係者とのコミュニケーションを適切に行いながら演習を進めることができる(25%)	毎週の取り組み姿勢、プレゼンテーションの完成度																		
環境計画演習6	演習	3	選必	3	後期	●	人々が生活のために環境をデザインする視点に基づき、自ら環境を読み解き課題を定義する力を養う。指定された対象地域から問題や課題を発見し、その解決に向けた調査・分析、企画・構想、計画・設計の一連の作業を行うことを目的とする。	①〈想像力〉自ら調査を企画し、対象地域の情報を収集・整理・分析して問題や課題を見出すことができる。(40%) ②〈創造力〉対象地域の環境、歴史、文化と、現代の社会性に配慮し、調査結果に基づき論理的にデザインし、美しく分かりやすくプレゼンテーションすることができる。(60%)	エスキス、成果品、プレゼンテーション																		

